

令和5年度 第2回羽黒地域振興懇談会 会議概要

- 1 日 時 令和5年2月16日(木) 午後3時00分～午後4時45分
- 2 場 所 羽黒庁舎 二階会議室
- 3 出席者 委員 五十嵐満委員、勝木正人委員、堀誠委員、加藤省二委員、榎本光男委員、鈴木静香委員、百瀬清昭委員、山本興治委員、小南孝子委員、三浦美津子委員
庁舎 支所長 秋葉敏郎、総務企画課長 観世安司、市民福祉課長 成沢結花、産業建設課長 上林喜博、総務企画課長補佐 成澤紀美 総務企画課主事 三浦耀介
本所 政策企画課専門員 佐藤紘司
地域振興課地域振興専門員 齋藤真一、地域振興課主事 横田淳一郎
- 4 会議次第
 1. 開 会
 2. 会長あいさつ
 3. 新委員紹介
 4. 説 明
 5. 意見交換
 6. その他
 7. 閉 会
- 5 会議資料
 - ・【資料1】第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて(諮問)
 - ・【資料2】第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しについて
 - ・【資料3】総合計画基本計画 評価調書(主な施策)
 - ・【資料4】第2次鶴岡市総合計画基本計画(羽黒前期計画の総括について)
 - ・【参考資料】第2次鶴岡市総合計画基本計画の評価・検証
 - ・【その他】庄交バス時刻表 鶴岡駅前～羽黒随神門(令和5年4月1日改正)
第17回住まいのまちなみコンクール「住まいのまちなみ賞」受賞記念講演会
- 6 意見交換会の要旨
 - (1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について(政策企画課 佐藤紘司説明)
 - (2) 羽黒地域の取り組みについて (羽黒庁舎総務企画課 成澤紀美説明)

(1) 第2次鶴岡市総合計画基本計画の中間見直しの進め方について委員より質問・意見

【百瀬会長】

資料の策定全体スケジュールのとおり、来年度地域振興懇談会は3回開催するのか。

【回答:政策企画課 佐藤紘司】

その予定である。

【委員】

この計画は、市民が暮らしやすさを実感し将来にわたって持続可能なまちであり続けることを目指すと前提しているが、先日 NHK の番組で2つ驚いたものがあった。ひとつは移住者に対する守ってほしい7箇条と、それから官制プアである。官制プアとは、鶴岡市で言えば指定管理団体の人たちの給料が少なく暮らしていけないというものであり、スポーツ協会も40歳を超えても20万弱という状況である。岸田内閣は給料アップを呼び掛けているが行き届いていない。市がコストカットして指定管理団体に管理させ事業を進めることは市の職員の給料のコストカットに過ぎないと思うが、これをなんとかする方策はどこにも謳っていない。給料をあげれば市の収入に入ってくるものもあるだろうし、市の支出が多くなるがことにもつながるが、その辺の兼ね合いをどこかにいれてもらいたい。

【回答:政策企画課 佐藤絃司】

今の話は非常に大事なことです。今この場で具体的な回答は出来かねます。予算や行財政改革にも関係する内容かとも思いますのでご意見は内部で検討させていただきます。

【百瀬会長】

以前、スポーツ協会の理事会でも職員の給料アップを申し上げておりますが、いい人材が逃げてしまうため非常に大事なことだと私は思います。

【委員】

最近、SDGsという言葉をよく耳にします。5年前の計画にも盛り込まれていたのか、また今回の見直しで具体的に基本計画にどのように盛り込む予定かお聞きしたい。

【回答:政策企画課 佐藤絃司】

前期計画に未来創造のプロジェクトを設定しており、そのなかに地域国際化SDGs推進プロジェクトがあり、この中で環境に関することや、当時、オリンピックやパラリンピックが控えていたこともあり、外国人の受け入れといった観点からも踏み込んでおります。また、毎年実施計画を策定しており、各事業がSDGsの何番につながるかアイコンをつけて、一目でわかるようにするなど、既にSDGsの観点は取り入れております。

【回答:羽黒庁舎総務企画課 観世安司】

5年前の策定の段階でもSDGsを踏まえた計画づくりをしていますが、5年経過しその考え方がさらに進んで、今後もっとこうしたほうがいいのではないかというご意見をみなさんからいただければという本会議の趣旨でございます。

【回答:政策企画課 佐藤絃司】

少し補足させていただきますと、当時とは少しかわってきており、考え方についても広まってきたところです。SDGsの誰一人も取り残さないという理念のもとに17のゴールがあるなかで、市の取り組みというのはそれぞれがどれかのゴールにつながっているというところで、市の目指す都市像に取り組むなかでSDGsのゴールにもつながっているとご理解いただければと思います。

【百瀬会長】

これからはもっとわかりやすく、この事業の取り組みはSDGsの何番目にはいつているか解説をつけるなど工夫していただきたい。

(2) 羽黒地域の取り組みについて 委員より質問・意見

【委員】

農業ではアスパラの生産の復活と明記されているが現在だいぶ少なくなったことから、羽黒の特産品となりうるものはブルーベリー等ほかにも幅広く取り入れるようにしたらどうか。アスパラは真室川のほか全国的にもやっているのので別の特産品を考慮する考えはないか。

【回答:羽黒庁舎産業建設課 上林喜博】

別のものと考えたら、思い当たるのが羽黒は柿でやってきましたので柿の復活これを復活というのでしょうか柿の放任樹とかでてきたりして、落ち込んでいる面もありますので、そういったものも考えられるかもしれません。ブルーベリーは、2年前からふるさと納税のほうに登録させていただきまして提供できる全体量が、メロンや米とかに比べると量的には少ないのですが大変人気があり、お客様からのレビューも多く、ほとんどが大変好評なものでこれは期待できると思っております。まちづくり未来事業の中で、一定の支援はさせていただきましたけれども、さらなる拡大にはつながっていない現状であります。

すぐ思い浮かぶのはこの2つですが、アスパラガスについては、確かにこの表で見ると大変な状況ではあります。農協でもなんとか復活したいという思いがありまして、売る相手方との兼ね合いもありますし、評価調書の下段の記載あります新たな技術というものできておりまして、その検証を踏まえて、この新技術が羽黒に適用できないかと期待しております。

【百瀬会長】

新しい技術とは立茎の下枝かきどりですか？

【回答:羽黒庁舎産業建設課 上林喜博】

長期立茎は最上の方で実績を上げているやり方かと思いますが、それは県の事業を利用したりして数年前から取り組んでいる方もいらっしゃいます。

たださらに、明治大学の農学部と東京都の多摩市ほか2市、あるいは民間企業の産官学で開発しました採りつきり栽培というものが今でてきておりまして、農業技術普及課にその栽培方法を勉強された方がいらっしゃって、その方のご提案もありまして、検証したいと考えております。そのメーカーが発表している数値によりますと10アールあたり目標値1000キロ採れるということですのでございます。10アールあたり1000キロとは、羽黒のピーク時で10アールあたり400キロとお聞きしております。今は1000キロをきるというような現状でありますので、1000キロまでいかなくとも半分でも相当な効果が見込めるため、試す価値はあることからその支援を考えています。

【百瀬会長】

1000キロとるためには、今度は長期採りをしないとだめだと思えます。

【回答:羽黒庁舎産業建設課 上林喜博】

その技術の名前が採りつきり栽培というもので、従来のような永年性作物というようなイメージから、ちょっと脱却したようなものであります。実際は2年間にまたがりますが、植えて採って、取り終えたらすきこむと、また次の苗を養成してまた植えるというやり方のようです。圃場をうごかしていったら連作障害を受けないよう、あるいはすきこむということで、防除経費もかなり従来より抑えられると聞いております。収量アップと経費削減が見込まれることから大変期待しております。

【百瀬会長】

酒田のみどり農協管内でハウスアスパラ栽培が相当増えている。サクランボははいってないのか。

【回答:羽黒庁舎産業建設課 上林喜博】

果樹の支援については、県の事業を活用していただいている農家は個別にはいらっしゃいますが、それほど栽培者数もそうですし、事業の利用者も多くはない状況です。もちろん、希望する方にはなにかしらの補助に結び付けられるものには支援しているところであります。

【百瀬会長】

隣の藤島地域ではこの同じ事業で、地域の担い手の方々が勉強会を開いて今後の地域の農業をどうするかフリートークや講演会などを開催し、意識統一から新たな発想という「農業元気クラブ」というものを行っている。農協任せでなく地域で気持ちを一つにして向かわないと、何百万円しかないものが1億2千万円にはならない。もう一度進め方を工夫して人材育成などを行い、儲かる農業にしていかなければならない。

【委員】

おかげで手向も修景整備が整い、みなさんのご努力でまち並みコンクールもいただき大変良かったと思いますが、ただバイパスを通過して訪れる観光客は少しずつ回復傾向にはありますが、集落内の往来は地域住民だけです。なんとか観光客の流れを集落内へかえる方策を考えていただきたい。また、廃校した学校も活用して集落を活気づけていただく施策についてもよろしくお願いします。

もうひとつは、活力ある地域づくりのコミュニティの促進において老人クラブと婦人会は健康で地域貢献する目的で活動していますので、地域の自治会の組織に老人クラブや婦人会の枠を組み込んでもらい、今会員がいない地域も一緒に共生して地域づくりをしていければと思います。これも課題解決の特効薬となるとと思いますので施策にひとつ盛り込んでいただきたいと提案します。

【委員】

今の話に関連して、地域コミュニティは確かに素晴らしい活動をやっていますが、私はコミュニティ団体が小さければ小さいほどスムーズに事細やかにやれるという感覚を持っています。集落単位でさまざまなことができれば良いと思っています。過去、手向随神門から下ってくる道にあった商店は今7割位なくなっています。昔は各集落にひとつはお店があって地域コミュニティの場となっていました。もう一度、昔の地域コミュニティを見直して計画策定を進めれば良いと思います。

【委員】

手向は今も酒屋が2件あります。それはなぜかという神社が買ってくれているからであります。私も車を運転して買い物にいけるのもそう長くはないということで、手向の商店をなくさないために地域通貨を検討し実証実験を行いました。敬老者へ500円分配り、主に酒屋と床屋・美容院で使用され使用率は85%くらいでした。期間は長くすると届け出が必要なので、9月18日配り12月20日までと期間を限定しています。今後は労賃を地域通貨にかえ、会長職であれば手当2割くらいと考えています。

【委員】

先般、商工会の理事の方々などの懇談会でその話が話題となり、ペイペイなど鶴岡市でいろいろ取り組んでいるが、もっと地域にあった細やかな取り組みをする機関が必要ではないかという意見ができました。

【委員】

安全安心と基本計画で謳っている中でびっくりしたのが、AEDが活動センターに備わっていないと

いうこと。年次的な整備ではなく早急に具体的に設置をすすめていただきたい。

また、観光はいろんなところで議論されているが、今後の方向性のなかでアフターコロナでは具体的に何をするのか、インバウンドと聞いてもわれわれではなかなかピンとこない。羽黒地域での具体的な取り組みを掲げると住民も対応ができるのかなと思います。

去年あたり施設見学とか文化財の推進というところで、小中学生がシルク未来館を訪れ、新鮮な感想を持って帰っていくようであります。ひとを呼ぶという観点から、子供のうちに文化財などの施設を見学させもりあがりを持たせることが大変重要。そこから親、親戚、観光客へつながると思うので、教育委員会と連携して校外学習を積極的に行い、羽黒だけでなく市全体の子供たちを交流させるような事業を展開してもいいのかなと感じました。

【回答:地域振興課 齋藤眞一】

以前羽黒庁舎に在籍したとき、山伏温泉ゆばかや林歯科医院などの医療機関にお聞きし、AEDの設置状況をリストアップしました。

【回答:羽黒庁舎総務企画課 成澤紀美】

AEDの設置につきしては、周辺に公共施設がない地域を優先に整備しており、今年は羽黒第四地区地域活動センターに来年は手向地区地域活動センターに設置予定でございます。泉と広瀬につきましては、学校や体育館が周辺にありますので優先度をつけながらいずれは配備していきたいと考えております。

【委員】

学校は、地域活動センターで使用したいときに空いていない可能性もあります。ただ置けばいいのではなく研修などして利用者がいつでも使えるよう研修もした方がよいと思います。

【回答:羽黒庁舎総務企画課 成澤紀美】

今年配備した羽黒第四活動センターは、今年設置をしたあとに地域住民を集めて講習を開いております。委員がおっしゃるとおりこれについては定期的にやる必要性はあると考えております。

【委員】

せっかく時間をかけて計画を作っても世界情勢や世界経済等の別の波が押し寄せてきて、ある程度の対応をしないと市の方向性があやくなる場合もあるので、実施計画の実施の補助的などところも検討してくべき。またアフターコロナの記載が多いが、アフターを待っては次の次元になる可能性もあるので、当面はウイズコロナで言葉の使い方に気を付けていただきたい。

広瀬の防災部の集まりで、ハンザマストが聞こえないという声があったことから、安心安全なまちをめざしているのであればなにかしらの対策が必要ではないか。

先ほどのアスパラの件では、ほかにもブルーベリーなどいろんなものを試してみて、売れ筋は残してだめなものを見切りをつけるとした判断も必要ではないか。最近はさくらんぼも北海道が適地となっていることから気象の変化という面でも考慮したほうがよいと考えます。

【委員】

私は保育園に勤務しており、以前保育園に月山のトウモロコシ迷路のチラシを直接配りに来てくれたことがありまして、どこにしようか検討していた時期だったので遠足で利用させていただきました。こういう営業があると羽黒の観光を知るきっかけにもなりますし、地域外の子供たちが遠足で行ったのをきっかけに今度親と一緒にいくという広がりもでてくるので、誘客にもつながると思います。

またコミュニティのところにSNSと記載がありますが例えばどんな案があるのか。

【回答:羽黒庁舎総務企画課 成澤紀美】

地域活動センターで様々な事業を企画していますが、広報の折り込みで周知しても若い人に情報が届かないという意見があったことから、最近自治振興会でも SNS を活用しており、泉ではツイッターとインスタ、広瀬ではインスタ、手向ではホームページを開設して事業周知等を行い、若い人の目に触れるような取り組みをしています。第四はまだですがこれからデジタル化を図っていかれたらと考えています。

【委員】

SNS は定期的な更新も重要かと思っておりますのでよろしくお願いします。それと、子供たちは柿が大好きで、松原保育園と東部保育園との交流のなかで東部の柿と一緒に収穫させてもらい、さわす体験を子供たちはすごく楽しんでやっています。食べ頃が過ぎて食べれなくなったとかの実体験って子供たちの心にとっても印象深く残っているようでしたので、もしそのような体験を若いお母さんたちがしても楽しいかなと庄内柿の PR にもつながるのではないかと。

【委員】

月山ハーモニーパークの位置づけがこれでよいのか疑問であります。観光では、何もものがなくなったハーモニーパークと映画村を一体と考えているようだが、2つとも離れていて何も一体になっていない。観光の広域・連携からするとハーモニーパークと映画ロケ地をなんとか行けるようにしたらどうか。

また、農業にもハーモニーパークが入っているようだが、ハーモニーパークが農業と観光と絡めて位置づけできるかという点で難しいので、線引きしたほうが良いと考えます。

コミュニティでは、泉活動センターの老朽化でコミセンとの一体化と記載されていますが、行政としては経費や維持管理などコスト面からも絶対いいという話であればその方向に早くもっていった方がいいと思います。地元から要望だしていただいてから動くというより、羽黒地域としては一元化し、2つの施設と屋内練習場も含めてどうするかという計画を全面的にうちだしていただけるとありがたい。

施設を壊してそのままというよりも、コミセンの機能を付け加えながら、羽黒地域の全体の利用も多くなるようにしていった方がいいと思います。

【回答:羽黒庁舎支所長 秋葉敏郎】

後期計画にぜひ入れたいと思います。力強いご意見をいただき大変ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

【委員】

観光ですが、松ヶ岡のクラフトフェスで、やはり駐車場がないものですからシャトルバスを準備しても渋滞がどうしても起きてしまいます。いっそのことどこかの柿畑や個人の土地を駐車場として有料で提供したりしてはどうか。クラフトフェス自体は素晴らしいものなので、前日から来て泊まっていたければなおいいと思います。マラソンも同様です。

先程、手向内に人が来ないと言っていましたが、魅力的なスポットがないからなのでお客を楽しませる場所づくりの工夫があればいいと思います。

また、農業では月山高原で小麦を植えていますよね。結構時期によってはきれいなので、その時期にイベントを開催し、キッチンカーを利用して情報発信などもいい案だと思います。

【委員】

誰もとり残さないというなかで、以前利用できていたマイクロバスが利用できなくなった。もう少しお年寄りのことも考えていただきたい。また、今創造の森でグランドゴルフをやっているが、あの坂はちょっときついので、もしできれば泉とコミセンを一元化した後、空いた場所でグランドゴルフができればもっと集まれるし子供たちとも交流できるのではないのでしょうか。

これはもうちょっと先の話になりますが、計画に子供に対しての教育が盛り込まれていないような気がします。長いスパンで考えると、もっと教育に力を入れていただいた方がよいと思います。もっと4、50代の住民の方々の声等を拾い上げてほしいと思います。

【委員】

庄交バスの時刻表が配布されていますが、また減るとしたら庄内交通から8合目路線を撤退してもらいシャトルバスを走らせる工夫をした方がよいかと思います。登山者の利用にちょうどいい時間帯の路線バスがないため、羽黒からの登山者は年々少なくなり危機意識を持っています。利用人数は少ないので庄交バス路線はいつそのこと撤退してもらい、市バスを走らせるくらいのことを考えていただきたい。

それと観光のKPIですが、人数じゃない消費額にもっていかないと、何人きても地元消費がなければ意味がないと私は思います。

【百瀬会長】

最後に、全国どこへ行っても日本遺産が2つあるのは羽黒だけだと思います。このつよみを子供の教育から観光客へ交流人口、移住、定住までしっかり結び付けて成果がでるように進めていただきたい。

また、人口減少も災害のひとつで静かな有事とも言われています。人口減少対策を前提にもりこまない事業は無意味だと思います。農業の人材育成しかり農業人口は確実に減っていきます。全部の施策において人口減少をしっかり受け止め、今後の人口推計をもとにどういう戦略をとっていかを考えて計画を作っていただきたい。